

乙 貞 おと さだ

第66号 通巻15巻 第5号
1993年1月15日発行
守山市立埋蔵文化財センター
☎0775-85-4397
〒524-02
守山市服部町2250番地

はじめに

平成5年の幕開けです！年末年始のあわただしさも一段落し、平成4年度もいよいよ第4四半期を残すだけとなったことを実感するようになりました。昨秋の「この冬は厳しくなる」との長期予報に身構えていたのですが、今のところは例年どおりの冬で、できればこのまま穏やかな冬であってほしいと願っています。

さて、発掘調査の進捗状況はこのような嬉しい誤算もあって、平成4年内に7遺跡9地点を終了することができました。下表は昨年11月から12月末までの実施調査の一覧表です。この2カ月の発掘調査の動向を報告します。

【発掘調査だより】

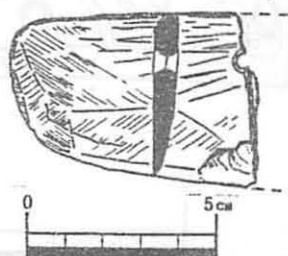
[11～12月実施調査一覧表]

(○は終了、次頁に位置図を掲載)

番号	遺跡名	所在地	調査原因	調査期間	備 考
①	小津浜遺跡	杉江町	農村下水道	10. 7～11. 7	
②	酒寺遺跡	播磨田町	区画整理事業	10. 1～12. 19	第1地点
③	大洲遺跡	阿村町	道路建設	10. 28～12. 28	
④	岡遺跡	岡町	個人住宅建築	11. 2～11. 13	
⑤	阿比留遺跡	小島町	道路建設	11. 4～11. 13	
⑥	下之郷遺跡	下之郷町	共同住宅建築	11. 3～11. 15	第1地点
⑦	下之郷遺跡	下之郷町	事務所建築	12. 15～12. 17	第2地点
⑧	二町鏡遺跡	焰魔堂町	道路建設	11. 16～12. 28	第1地点
⑨	二町鏡遺跡	二町町	個人住宅建築	11. 24	第2地点
10	酒寺遺跡	播磨田町	店舗建築	11. 27～	第2地点
11	酒寺遺跡	播磨田町	公園建設	12. 20～	第3地点
12	欲賀城遺跡	欲賀町	ほ場整備事業	12. 8～	
13	長塚遺跡	小島町	宅地造成	12. 17～	
※	野洲川流域の調査	服部～中町	野洲川地帯事業	12. 4～12. 26	中町教育委員会との合同調査

■小津浜遺跡（一覧表、位置図①）

杉江町地先で10月7日から実施していた農村下水道排水処理槽建設地の調査では、田面より約80cmの深さ（上層）で、中世～近世と考えられる水田跡、更にその60cm下（下層）からは弥生時代中期から古墳時代にかけての土壌、溝を検出しました。



右図は下層から出土した石包丁（弥生時代）実測図です。 ▲石包丁実測図

■酒寺遺跡第1地点（一覧表、位置図②）

昨年10月より実施していた播磨田町土地区画整理事業に伴う酒寺遺跡の発掘調査は12月19日に終了しました。今回は区画整理範囲に点在する6カ所の同事業組合用地、都合約2000㎡の調査を行いました。最後の調査地からは竪穴住居1棟、土壌数基と溝を検出しました。

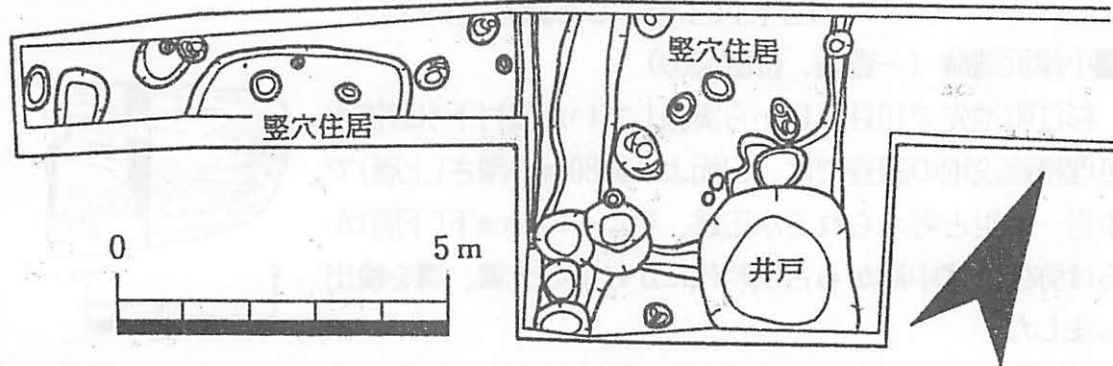
竪穴住居は直径約11mを測る大型の円形住居で、床面から、8穴の支柱穴と焼土や炭が堆積する土壌が中央でみつかっています。出土した土器から弥生時代後期前半の時期がうかがえます。また、溝はこの住居とは関係なく、須恵器が出土していることから古墳時代後期の時期が考えられます。

区画整理事業に伴う調査は平成元年度より4カ年にわたり実施してきましたが、今回の調査で概ね終了します。当事業調査、また区画整理を契機とした開発に先立つ調査によって、今まで余り知られていなかった酒寺遺跡の実態解明の作業は飛躍的に前進しました。これからも当地では多くの発掘調査が実施されるものと予想でき、更に遺跡の詳細が明瞭になることが期待できます。

■大洲遺跡（一覧表、位置図③）

10月28日から12月28日までの間、阿村町地先において道路改良工事に先立つ調査を実施しました。今回は道路側溝設置工事箇所である約150m×2mの細長い範囲2カ所が調査地です。調査の結果は、耕作土直下で中世の包含層、そしてその下から田畑の鋤溝と考えられる小溝と平安時代の掘立柱建物や溝を検出し、さらにその下層で弥生時代の包含層、弥生時代後期の竪穴住居5棟以上、土壌、柱穴、大溝などを検出しました。

弥生時代の遺構は伊勢遺跡と同じ微高地上にあり、弥生時代後期としては全国最大級の掘立柱建物が発見された地点から僅か二百メートルしか離れていないことから、伊勢遺跡の集落の一部ではないかと考えられます。



■岡遺跡（一覧表、位置図④）

▲大洲遺跡下層遺構平面図（弥生時代後期）

個人住宅建築に先立って実施した岡遺跡の発掘調査は、面積約 100㎡と狭隘ながら多様な遺構を検出しました。遺構の重複が激しく、徐々に掘り下げた結果、上層では溝7条、土壇1基、ピット21穴、中層では竪穴住居1棟、下層ではピット10穴を検出しました。竪穴住居は調査区外にも広がりますが、一辺約 5.5mの方形住居になります。土壇は径約 1m、深さ60cmの規模で、埋土中から土師器の皿が多数出土しました。昭和57年に行った近隣地の調査から、竪穴住居は古墳時代後期、土壇は鎌倉時代前期の時期が考えられます。

■阿比留遺跡（一覧表、位置図⑤）

11月4日から13日にかけて実施した阿比留遺跡の調査は、都市計画道路古高・川田線建設に先立つ調査です。道路建設地は平成3年度にこの箇所以外は終了していて、今回の調査地は約 200㎡の面積を測るアパートの駐車場です。平成3年度調査では、主に古墳時代後期の竪穴住居、掘立柱建物、土壇、溝などを検出し、阿比留遺跡にとって大きな知見を得ました。今回の調査でも地表下約 1.5mで、前回調査成果と時期の合う古墳時代後期のピット十数穴と土壇を検出しました。

前年度からの阿比留遺跡の調査では、遺構がみつかる深さが極端に異なっています。当地が野洲川から分流する法竜川や江西川の川筋にあたり、氾濫や土砂の堆積作用が激しかったためだと考えられます。

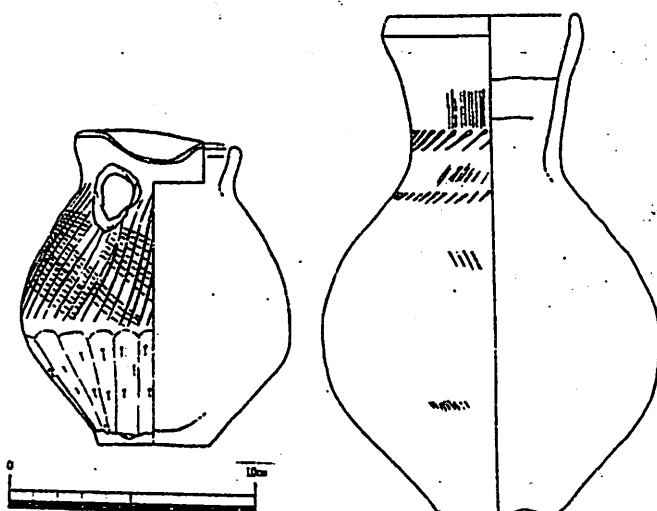
■下之郷遺跡第2地点（一覧表、位置図⑦）

下之郷町集落の東端において事務所建築に先立ち、12月15日から17日までの期間、発掘調査を行いました。その結果、約 100㎡の調査地からは土壇、「コ」状になる溝、多数のピットを確認しました。

土壇やピットは弥生時代中期後葉の時期が考えられ、溝は須恵器が出土していて時期が異なります。ピットは柱痕の残るものもあり、その状況からすべて柱穴と

考えられますが、掘立柱建物としてまとまるものではなく、竪穴住居の残存とも思われません。また、当初は1基の長方形のものとして検出した土壌を掘削したところ、円形と方形の2基の土壌が重なっていたことが分かり、弥生時代中期の遺構にも時期差があることが半明しました。図は土壌から出土した弥生土器です。

▼下之郷遺跡出土弥生土器実測図



■旧野洲川北流堤防の調査（一覧表、位置図※印、服部町から中主町堤）

12月に旧野洲川の平地化事業に先立って、堤防部分の確認調査を中主町教育委員会と合同で実施しました。調査はバックホウによって堤防を深さ約8mまで掘り下げ、その土層の堆積を観察するというやり方で実施し、遺構の存在や堤防の成り立ちを確認しました。

その結果、(1)堤防の土層堆積は数十層にも区分でき、このことから幾度もの洪水や川の氾濫の繰り返しで堤防が形成されたと考えられ、現在の形状になるのは、中世以降の野洲川の堆積作用によるものであること。(2)標高86~88mを測る堤防の基底部分には部分的ではあるが、水田畦畔やピットが確認され、堤防やその周辺に集落跡が存在することが予想できる。

大まかに、以上2項目を成果として得ることができました。

□ □ □ 実施中の調査 □ □ □

■欲賀城遺跡（一覧表、位置図12）

本年度から平成6年度にかけて欲賀町地先で施工されるほ場整備事業に伴って昨年12月より欲賀城遺跡の発掘調査を実施しています。整備面積は約30haで、そのうち平成4年度は3月までに削平される畑地と水路、道路工事箇所、約4000㎡を調査する予定です。

現在までにおよそ1200㎡を掘削し、方形周溝墓、掘立柱建物、土壌、溝などを検出し終わっています。遺構検出作業中に土師器皿、黒色土器碗、須恵器杯や陶器片、瓦が出土しているため、古墳時代から鎌倉時代にかけての遺構と考えられま

す。これから遺構掘削を進めて行きますので、その詳細を逐次この「乙貞」で報告して行きます。

■酒寺遺跡第3地点（一覧表、位置図11）

播磨田町地先の土地区画整理地内の公園建設用地を、第1地点の調査に継続して12月20日から着手しています。調査場所は第1地点の隣接地で、面積約1500㎡が対象になります。

現在、表土を掘削して遺構検出を行っていますが、調査地の西半分からは幅約30mもある川跡を、この川の東側からは竪穴住居4棟や掘立柱建物の存在が想像できる多数の柱穴を検出しました。川跡は南北方向に流れていて、古墳時代後期の須恵器が出土することから、このころ埋没したことが分かっています。また、竪穴住居については出土土器から古墳時代後期初頭の時期が考えられます。本格的な遺構の掘り込みによって更に詳しいことが期待できますので、次号でもう一度報告いたします。

■長塚遺跡（一覧表、位置図13）

昨年末より宅地造成工事に先立ち実施している調査で、約1000㎡の水田地が対象です。ここからは方形周溝墓6基と溝6条を検出しています。方形周溝墓は、現状では2列に並ぶように築かれていて、調査地外にまだまだ広がるようです。周溝からの遺物の出土は皆無に等しいのですが、唯一出土する土器から弥生時代の墓であると考えられます。また、6条の溝はほぼ同方位、一定間隔でみつかっています。規模は北隅で検出した1条が幅1.5m、深さ70cmを測るほかは、40～60cmの幅で深さ10～30cmの似通った規模になります。方形周溝墓を切り込んでいることから、それよりも新しい時期と断定できます。

調査途上ですので次号でも報告しますが、ちょうど河西小学校を中心にして分布する長塚遺跡からは外れると従来考えられていた所でみつかったことから、この方形周溝墓群を築いた人々のムラが長塚遺跡にあるのか、それとも当地の東側に所在する播磨田東遺跡でみつまっているムラに関係するのか、新たな課題が生まれました。

【後記】 新年早々、三日に上げず雨が降るという不順な天候が続き、「発掘初め」の出鼻をくじかれています。しかし厳冬であれば雨ではなく雪が降り、雪であれば解けるのに1日はかかる。すると、雨のお陰で1日もうけたこととなります。今年はプラス思考で頑張ります。さて、乙貞発行も4年度は残り1回となりました。次号はこの1年の発掘調査をまとめて報告します。（馬耳東風）